

第2期西東京市スポーツ推進計画 令和6年度評価及び令和7年度目標調査票

※総合型地域スポーツクラブ (イ):にしはらスポーツクラブ
(ロ):ココスポ東伏見

基本目標4 スポーツを通したまちづくり

施策の柱	施策	担当課・団体	令和6年度予定	令和6年度評価							令和7年度担当課目標			
			具体的な取組内容	取組実績	担当課・団体の評価とコメント					次年度への課題		具体的な事業 又は取組計画		
					評価の着眼点								担当課評価コメント	評価
I	II	III	IV	V										
(1) スポーツを通した多様な市民の地域参加の促進	① 多様なスポーツ機会の提供 市と大学・民間事業者と連携し、健康増進や介護予防・フレイル予防、シーズンスポーツ、各種スポーツ教室など、だれもがスポーツを楽しむことができるスポーツ機会を提供し、参加を促進します。	指定管理者	早稲田大学アスリート事業の開催	ココスポ東伏見様と早稲田大学教授及びアスリートに委託したバスケットボール教室を実施	4	4	4	4	4	地域との連携が図れた。	A	早稲田アスリートの日程確保が困難	早稲田大学アスリート事業の開催	
		総合型地域スポーツクラブ	クラブの認知度の向上やPR活動について自主的に活動する方法について模索中であり、課題でもある。(ロ)	大学生による視察があり、モルック・ポッチャ・ノルディックウォーキングの実施(イ)	4	4	4	4	4	大学生より連絡あり、年2回程ご説明の機会を作り対応。関係冊子を送って頂いた。(ロ)	A	ポッチャ継続、より多くの方々の参加を目指し広報活動する。(ロ)	モルック・ノルディックウォーキングの定期開催、交流会の企画(ロ)	
			早稲田大学・武蔵野大学との連携(ロ)	通常の活動の中では引き続き早稲田大学の学生と連携、イベントにおいては武蔵野大学とも連携した。(ロ)	4	4	4	4	4	概ね計画通り実施できた。	A	学生が入れ替わるタイミングで引継ぎが上手く行かないケースがあったので、上級生が下級生に引き継げる形をしっかりと伝えていきたい。(ロ)	今までの活動継続を軸に新しい取り組みも提案があれば検討したい。(ロ)	
		スポーツ振興課	早稲田大学・MUFG PARKとの連携	・直接学生から指導を受けることできる早稲田大学野球教室を、春・秋で実施した。 ・三菱UFJ銀行と体育協会が連携してMUFG PARKでサッカー元日本代表の李 忠成氏によるサッカー教室を開催した。	4	4	4	5	4	例年事業の地域連携事業として実施している早稲田野球教室、地域の民間企業と連携した新たな事業が展開できた。	A	実施時期によっては、実施場所が使用できないことも予想されるため、早めの調整が必要である。	早稲田大学・MUFG PARK・岩倉高校との連携	
	② 各種国際大会等に向けた機運の醸成 東京2020大会のレガシーを継承するとともに、今後開催が予定される各種国際大会の機運醸成の取組を推進します。	スポーツ振興課	東京都の補助金を活用するため、各種事業において、2025世界陸上・デフリンピックの機運醸成を行う。	市民スポーツまつり等で2025世界陸上・デフリンピックの機運醸成を実施し、東京都の補助金アップ(1/2→2/3)に繋げることができた。	4	4	4	4	4	西東京市民が出場するデフリンピック、34年ぶりに東京で開催される2025世界陸上の機運醸成に努めた。	A	例年、東京都の補助金を活用しているが、「2025世界陸上・デフリンピック」は、令和7年度が開催年であるため、今後の補助金アップに繋がる事業に取り組みめるかが課題である。	東京都の補助金を活用するため、各種事業において、2025世界陸上・デフリンピックの機運醸成を行う。	
	③ 西東京市体育協会との連携事業の充実 市は、NPO法人西東京市体育協会と連携して、西東京市総合体育大会や西東京市民スポーツまつりなど既存のスポーツイベントの充実に取り組みます。	スポーツ振興課	市総合体育大会、市民スポーツまつり、リレーマラソン大会等の実施を通じて、地域の活性化に繋げることができた。	市総合体育大会、市民スポーツまつり、リレーマラソン大会等の実施を通じて、地域の活性化に繋げることができた。特に、都立東伏見公園で実施したリレーマラソン大会では、地元の野菜や一店逸品の販売、参加チームに市内病院チームが参加し、積極的に怪我人の対応してもらうなど、参加者や公園利用者に対し、市と関係機関との連携をアピールする場になった。	4	4	4	5	4	体協との連携、警察・消防・病院など市内関係団体との連携が取ることができた。	A	・令和7年度は、リレーマラソン大会の会場が変更になることから、事前調整が必要 ・市民スポーツまつりの参加人数については、本計画の指標に示されていることから、その目標値(令和15年度)に近づけるよう、取組内容を検討する必要がある。	市総合体育大会、市民スポーツまつり、リレーマラソン大会等の実施を通じて、地域の活性化に繋げる。	
	スポーツ情報の発信	① スポーツ関連情報の一元的な管理・提供 分散しているスポーツ関連情報の一元的な管理・提供の方策を検討します。	指定管理者	LINEやHPの活用	LINEやHPは常時活用している。	4	4	4	4	4	LINE,HP常時活用	A	LINEの配信数に制限がかかってしまう時がある。	LINEやHPの活用
			体育協会	スポーツ相談窓口を充実させるために、関連情報の一元管理及びデータベース化の検討	関連情報の一元管理及びデータベース化を検討中	4	4	4	4	4	計画通りであった。	A	引き続き検討する。	データの一元管理を模索する。
			スポーツ振興課	市ホームページ・SNSを活用した状況提供	・スポーツ相談窓口において、スポーツに関連する様々な相談を受けている。LINEでの相談も可能なので、気軽に相談し、情報を得ることができる。 ・スポーツ施設の予約や、空き情報については、「公共施設予約管理システム」において確認することができる。	4	4	4	4	4	スポーツ相談窓口連絡会の開催によって、庁内関係課と連携し情報の一元化に向けた成果があった。	A	・スポーツ相談窓口の相談件数の増加や、スポーツ相談窓口が提供する情報収集を積極的に行う必要がある。 ・公共施設予約管理システムが令和8年度から更新されるので、利用者のことを考えながら、システム移行を進めて行く必要がある。	・スポーツ相談窓口の広報を市HPや市報等で広く周知を行う。 ・公共施設予約管理システムのシステム移行の調整
② ICTを活用したスポーツの推進 ICTを活用し、スポーツへの関心喚起、行動変容につながる取組を推進していきます。 また、多様な主体との連携によるスポーツ・健康関連のデータの蓄積及分析を行い、市のスポーツ施策などの検討に活用、市民へのフィードバックの仕組みづくりを検討します。		指定管理者	トレーニング室利用者に、インボディ測定を促進	・インボディ測定は常時開設 ・誕生日付きは1回無料を実施	4	4	4	4	4	トレーニング利用者も増え、インボディ利用者も少しずつ増えている。	A	そこまで需要がない。	トレーニング室利用者に、インボディ測定を促進	
体育協会		スポーツ相談窓口でのLINE活用拡大	スポーツ相談窓口でのLINE活用は拡大できたが無料での使用に限界があることが分かった。	4	4	4	4	4	計画通りであった。	A	有料での使用を検討し、活用拡大を図る。	LINEの活用拡大を具体的に検討する。		
総合型地域スポーツクラブ	今年度実施なし(イ)	市報・ホームページの活用(ロ)	3	3	3	3	3	今後HPやSNSを是非活用したい。(ロ)	B	認知度が低い、グラウンドのより有効活用(ロ)	SNSの活用(ロ)			
	市の広報やホームページSNSも積極的に活用(ロ)	思うように参加者が増えないプログラムの告知を中心にクラブの公式HPやSNSを活用したり、連携している団体にも積極的に告知を依頼した。(ロ)	3	4	4	4	3	継続して取り組みを推進していく。	B	どこまで効果があったのか、リサーチも含めて継続していく必要がある。(ロ)	新しい施設や団体からも連携の依頼が来ているので、少しずつ広げて行けるように取り組みたい。(ロ)			

施策の柱	施策	担当課・団体	令和6年度予定		令和6年度評価							令和7年度担当課目標	
			具体的な取組内容	取組実績	担当課・団体の評価とコメント					次年度への課題	具体的な事業 又は取組計画		
					評価の着眼点							担当課評価コメント	評価
I	II	III	IV	V									
		スポーツ振興課	LINEを活用したスポーツに関する情報発信の取組検討	スポーツに関する情報を互いに共有できるようなシステムについて検討を重ねている。	4	4	4	4	3	LINEを活用したシステムは断念したが引き続き、ICTの活用を検討していく。	A	システム実施に向けた、調整を積極的に進め、稼働を引き続き目指す。	・システムの中身の調整は、担当者、予算計上については、財政課と調整を行う必要がある。 ・西東京市の財政状況を鑑みた、効率的かつ、合理的な実施の実現
③	公共スポーツ施設の利用促進【再掲】 さまざまな情報媒体を通して、市内の公共スポーツ施設の情報を全市民的に発信するとともに、魅力的な事業を提供することによって、利用者・利用圏の拡大を図ります。	指定管理者 体育協会 スポーツ振興課	・4半期に一度、市報でチラシ折込配布 ・公式LINEの配信 スポーツ相談窓口でのLINE活用拡大 HP、SNS等を活用した周知	チラシ配布、公式LINE配信は通年で実施 スポーツ相談窓口でのLINE活用は拡大できたが無料での使用に限界があることが分かった。 毎月最終日曜日に開催のENJOYニュースポーツ等市主催事業を市HPや、市報にて広報した。 指定管理者の事業ではあるが、年4回開催されるシルバーウィーク・シルバー月間の事業について市報で広報を行い、65歳以上の利用者の拡大を図った。	4	4	4	4	4	3か月クール教室と合わせて折込チラシ配布 計画通りできた。 スポーツ施設の利用促進を目的に、市で活用できる情報発信の活用を引き続き検討する。	A	チラシの経費が増加している。 有料での使用を検討し、活用拡大を図る。	・4半期に一度、市報でチラシ折込配布 ・公式LINEの配信 LINEの活用拡大を具体的に検討する。 事業実施にあたり、HP・SNS等を活用し、事業の概要を伝え、スポーツ施設利用の拡大を目指す。
④	スポーツ観戦情報の提供 トップアスリートが参加する競技大会だけではなく、市内で開催されるスポーツ大会や市内の学校、スポーツクラブなどが出場する大会の情報提供を推進します。 また、トップアスリートのパフォーマンスを実感したり、楽しんだりするために、市内外でのプロスポーツ観戦ツアーの企画を検討します。あわせて、各スポーツの観戦の楽しみ方のアドバイスの提供なども検討していきます。	指定管理者 体育協会 スポーツ振興課	LINEやHPを活用した周知の実施 スポーツ相談窓口での情報収集と相談者への情報提供 HP、SNS等を活用した周知	LINEやHPは常時活用している。 情報収集を行い、相談者へメール・LINE等で情報提供できた。 市民等のスポーツへの参加意識を向上させる目的で、全国大会・国際大会へ出場した市ゆかりの選手の方を、市HPや、SNS・市報等で広報した。 FC東京から、ホームゲーム戦の招待企画の提案をいただき、HPや市報で広報を行った。 FC東京の選手が小学校を訪問し、選手のプレーの鑑賞や、選手の体験談を子供たちへお話いただいたことにより、子供たちへ夢を与えるきっかけづくりとなった。	4	4	4	4	4	LINE,HP常時活用 計画通りであった。 引き続き市ゆかりの選手等の情報提供、周知に努めていく。	A	LINEの配信数に制限がかかってしまう時がある。 引き続き継続実施する。	LINEやHPの活用 情報収集と相談者への情報提供を検討する。 全国大会、国際大会へ出場した市ゆかりの選手の活躍をHP、SNS等を活用して広報する。 FC東京との連携と連携
⑤	スポーツ相談窓口の充実 体力向上・健康増進イベントや活動場所の紹介などに関する市民の様々な相談に対応するため、相談窓口機能の充実や各関係機関の連携強化を促進します。	スポーツ振興課 体育協会	庁内連絡会で情報連携し、相談窓口機能の充実や各関係機関の連携強化を促進 スポーツ相談窓口でのLINE登録者拡大 庁内連絡会での情報連携	年齢や障害の有無に関わらず利用できるスポーツ・運動、健康づくりのきっかけをお手伝いする「スポーツ相談窓口」について、関係各課及び外部関係機関が出席する「スポーツ相談窓口事業連絡会」を開催し、それぞれの事業の取組等について共有を図り、窓口の活性化に繋げることができた。 スポーツ相談窓口でのLINE登録者数は増加できた。 庁内連絡会は2回開催され情報連携できた。	4	4	4	4	4	スポーツ相談窓口連絡会の開催によって、庁内関係課と連携し情報の一元化に向けた成果があった。 計画通りであった。	A	「スポーツ相談窓口」をさらに充実させるためには、ICTの活用含めた機能の充実も必要と考えるが、導入及び運用費をどのように確保するかが課題 LINE登録者数をさらに増やすため、有料での使用を検討する。	「スポーツ相談窓口事業連絡会」で情報連携し、相談窓口機能の充実や各関係機関の連携強化を促進 LINEの活用拡大を具体的に検討する。